

「英語 I」における ICT 活用と協同的省察の試み

永 倉 由 里

Trial of ICT Utilization and Collaborative Reflection in English I

NAGAKURA Yuri

2020 年 11 月 5 日受理

抄 録

本稿は、本学教育学部初等教育課程の 2 年生を対象とする課程共通科目「英語 I」において、自律学習者を育成する手法の一つとして、学習方略への意識を促すストラテジー・トレーニングと Google Form 及び Google Classroom を利用した相互評価と振り返りの共有化を取り入れた実践研究である。筆者は、これまでも自律学習者の育成を目指し、学習方略への意識を促す「ストラテジー・トレーニング」を行ってきたが、本研究では「協同的な省察」を導入した点に特徴がある。

まず、本研究で着目した「自律性の社会的側面」の重要性を述べ、続いて、実践概要および量的・質的データの分析結果を示す。

実践概要（第 5 章）では、教師と学生の双方が、ICT を活用した協同的省察を取り入れたストラテジー・トレーニングを通して自らの営みへの理解を深めていく過程を紹介し、省察の実際（第 6 章）では、自由記述と質問紙調査の分析結果を示す。

キーワード：実践研究法、学習者理解、授業分析、小学校英語教育、協同的省察

1. はじめに

本稿は、教育学部初等教育課程の 2 年生を対象とする「英語 I〔必修、1 単位〕」において、「ICT 活用」と「相互評価・相互省察」を取り入れ、自律性の涵養を目指した実践の報告である。筆者は以前から学習者を育成する手法の一つとして、学習方略への意識を促すストラテジー・トレーニングを行ってきたが、本研究では、Google Form 及び Google Classroom 活用し「協同的な省察」を導入した点を特徴としている。

次章では、本研究で重視した「自律学習者の社会的側面」に触れ、協同的な省察を導入した理由を述べる。続いて、実践概要、収集したデータとその分析結果について報告し、本実践の有効性と今後の課題について言及する。

2. 自律性 (autonomy) の社会的側面

学習における自律性 (autonomy) とは、「自分自身の学習に責任を持つ能力 (Holec, 1981)」であり、「自分自身の学習をコントロールする能力 (Benson, 2001)」である。すなわち、メタ認知を働かせ、学習者としての自己を見つめながら、学習目標を決め、学習方法を選択・試行し、その過程をモニタリングすることで、学習の成果や効率を評価し、自らを動機づけながら学習を継続することを意味する。

藤田・富田 (2012) は、大学生 171 名を対象に自己調整学習方略 (モニタリング方略、プランニング方略、認知的方略) について調査を行い、メタ認知能力が発達している大学生は、モニタリング方略 (客観的に自己の学習活動や理解度を把握・調整するメタ認知的方略) が学習効果を高めることを自覚していることを示した。

一方、Sinclair (2000) は、自律性の特徴を細分化し、「自律性は教室の内外で生まれ、個人的であるとともに社会的な面を持っている」という点を強調している。

筆者は、これまで教育的の介入によって後天的に自律性を育むこと (Chang, 2005) を目指し、妥当であろう学習方略を紹介し、それらへの意識と試用を促してきた (永倉, 2008, 2015, 2017, 2018, 2020) が、そこでは、個々の学習者に目を向け、学生同士の関係性と協同性への視点が欠けていたと言える。

そこで、学生同士のより主体的な関わりを期待し、教師が学生を理解することに加え、学生が学生自身を、そして学生同士をより深く理解すること、さらには、教師だけでなく学生たちも、授業という営みを様々な角度から見つめ、授業の在り方への意識を高められないかと考えた。

つまり、「協同的な省察を通して学習者のメタ認知能力が高まり、自己の学びへの責任感と自律的姿勢が育まれる (小嶋, 2010, p.146)」ことを願ったのである。

Sinclair (2000) が強調する自律性の社会的側面は極めて重要な視点である。なぜなら、該当学生の多くは、将来、“チーム学校”あるいは“学年団”の一員として、同僚性・協働性を備えた教員へと成長することが期待されるからである。

なお、実践研究の定義としては、Borg (2010) の「実践研究とは教師による質的・量的で体系的な探究であり、様々な側面からその営みへの理解を深めることにより、教室内で起こる teaching と learning の質を高めること」を踏襲している。

3. 本実践研究の目的

これまでの議論を踏まえ、本実践研究の研究課題を「協同的省察を取り入れたストラテジー・トレーニングとしての授業実践について、① ICT の活用と、②協同的な省察に注目して、その過程への理解を深めることにより、該当授業の内外で生じる学生の変容を探り、teaching と learning の質を高めること」とする。

4. 対象学生

対象学生は、令和 2 年度前期に「英語 I」を履修者した 2 年生 120 名である。

5. 実践概要

同科目は、小学校教員養成課程への適用が求められている「小学校教員養成外国語（英語）コア・カリキュラム」に基づいて行われ、(1) 授業実践に必要な英語力（聞く力、話す力、読む力、書く力）と(2) 英語に関する背景的な知識（音声・語彙・文法・語法・第二言語習得等）の修得を目指す。コロナ対応により、授業の前半はオンラインで行われたが、ストラテジー・トレーニングとしての授業実践を遂行した。

5.1 小学校外国語活動のコンセプト動画の紹介

例年、第 1 時に自己紹介やシラバスの確認を行うが、オンラインでの授業を強いられたので、筆者の自己紹介（図 1）、「英語 I」のシラバスのポイントと第二言語習得理論に則した小学校外国語教育における学びの在り方の特徴を伝える動画を作成した（図 2）。



図 1 自己紹介動画の一画面

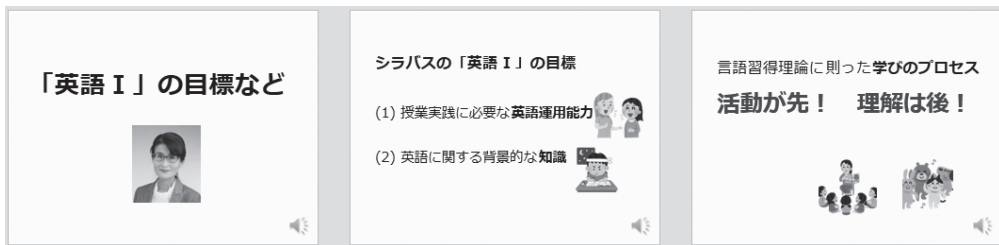


図 2 「英語 I」のシラバスのポイント（動画の一部）

この動画では、小学校外国語教育が、コミュニケーション能力の育成を目指していることから「あたま・こころ・からだ」のスイッチを“On”の状態にして学ぶ Happy Learning の重要性を強調し、Happy Teacher を目指して欲しいと伝えた(図 3)。



図 3 小学校外国語活動の在り方を伝える動画（一部、https://www.youtube.com/watch?v=2OcVRcB_XrM）

5.2 自己理解のためのアンケート調査

ストラテジー・トレーニングでは自己省察が重視される。そこで、英語学習者としての特徴を探るアンケート形式の調査「英語学習とこれまでとこれからを考えるアンケート 2 種」を、Google Form を活用して実施した。集計結果（6.1 で後述）は共有され、小学校での学びの在り方を考える際に用いた。

5.3 オンライン授業の概要

オンライン授業であったが、以下の 6 項目を意識しながら授業を行った。

- (1) 毎回の授業内容をパターン化し、イメージしやすいようにする。
 - (2) ICT を活用した「見る・聴く・声に出す」活動や課題を多くする。
 - (3) 音声・動画の URL、QR コードを紹介し視覚・聴覚に訴える情報を提供する。
 - (4) 提出した課題の一部（指導案など）を Google Classroom 上で共有する。
 - (5) 発音、チャッツなどの実技課題については自撮り映像を筆者に提出する。
 - (6) アンケート結果や振り返り（自由記述）を Google Classroom 上で共有する。
- 次節以降、具体的な学習活動を紹介する。

5.3.1 クラブルーム・イングリッシュ

用意してあった自作教材を配布する機会が得られなかったため、文部科学省のホームページにある「小学校外国語活動・外国語研修ハンドブック」第 6 章 実践編 (https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_3.pdf) を活用し、以下の手順で学習するよう指示した。

- 【手順 1】文部科学省が提供する YouTube 動画の音声を聞き、リピートする。
- 【手順 2】覚えるつもりで、もう一度リピートする。
- 【手順 3】日本語を聞いて、英語は見ないで、音声にかぶせて言う。
- 【手順 4】対面授業での確認小テストに備えて、英語を書けるようにする。


スマホ学習も提案した。学習アプリ Quizlet (<https://quizlet.com/login>) をインストールし、筆者が登録した学習セット「yuri_nagakura」を選択すると、授業 1 回分ずつを練習できるようになっている。「意味と発音の確認」「単語カード」「日英マッチング」「確認テスト」の機能を使ってゲーム感覚で練習できる。

5.3.2 『Let's try! 1』（小学 3 年生用教材）の概要把握と Listening

『Let's try! 1』の構成と主な活動を概観してもらうため、文部科学省が自宅学習用に公開したサイトを紹介します。以下の指示を出した。

- 【手順 1】テキストを見ながら聞く。
- 【手順 2】スクリプトを見て、内容を確認しながら聞く。
- 【手順 3】音声にかぶせて練習し、スムーズに口が回るようする。

表 1 『Let's Try! 1』の QR コードとスクリプトの提示 (一部)

No	活動	QR コード	スクリプト
1	p. 4 Let's Listen		1 Hello. I'm Olivia. I'm from America. 2 Jambo. Hello. I'm Jomo. I'm from Kenya. 3 안녕하세요 (안녕하세요). Hello. I'm To-yun. I'm from Korea. 4 नमस्ते (नमस्ते) Hello. I'm Anita. I'm from India. 5 Guten Tag. Hello. I'm Leon. I'm from Germany.

5.3.3 発音クリニックと発音とトレーニング

文部科学省が公開している「発音クリニック」の音声と「発音トレーニング」の動画を視聴し、発音記号と口の形、舌の位置を確認しながら練習するよう指示した。口の形が共通する [t] と [d]、[f] と [v]、[k] と [g]、[s] と [z]、[p] と [b]、[e] と [ø]、あるいは [æ][a][ʌ][ə] の違いや [l] や [r] などの舌の位置に注意するよう促した。

意識すべき音を含む 30 語を音読し、口元の自撮り映像を課題として提出させた。

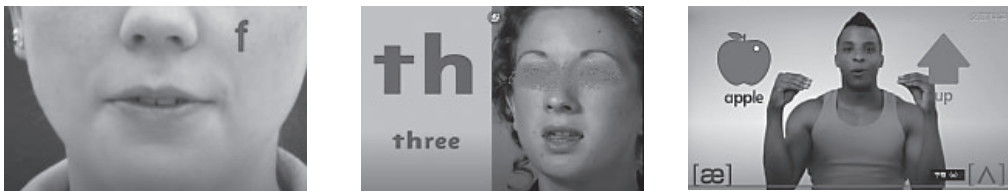


図 4 発音練習のために紹介した動画 (一部)

5.3.4 発音とチャンツの練習

3 年生用教材『Let's try! 1』、4 年生用教材『Let's try! 2』、移行期 5 年生用教材『We can! 1』、移行期 6 年生用教材『We can! 2』のデジタル教科書については、草薙キャンパス内で視聴できるようにしてあるが、コロナ禍で立ち入りが禁止されていたため、YouTube 上にある類似のチャンツ 11 種を紹介した。

【手順 1】動画を視聴し、かぶせて言ったり歌ったりし口が回るまで練習する。

【手順 2】ジェスチャーをつけるなどの工夫を加える。

【課題】チャンツ 2 つを選び、教師役として、児童の前で発音・口の形のモデルを示す場面を想定して、チャンツを歌い、自撮りして Google Classroom の「課題」に提出する (他の学生との共有はしない)。

表 2 チャンツの URL の紹介 (一部)

No	タイトル	
1	♪ Hello Song ♪	https://www.youtube.com/watch?v=g6IrrCcx02uU
2	Ten Steps (11-20)	https://www.youtube.com/watch?v=DxrvENQpdSU
3	チャンツでボン「天気」	https://www.youtube.com/watch?v=E067olX8fyM



図 5 提出されたチャンツの自撮り動画（一部）

5.3.5 文部科学省推奨等の授業動画の視聴

コア・カリキュラムでその実施を強く求めている模擬授業に備えるため、文部科学省が推奨する小学校での実践動画等の視聴と視聴後のコメント提出を求めた。教師の言語使用、非言語要素、児童の様子、自身の小学生時代の外国語活動との相違点、感想、意見などを Google Classroom 上で共有してもらった。学生同士の気づきや感想・意見の共有を目的とした。

表 3 授業動画の URL の紹介（一部）

No	タイトルと URL
1	小学校の外国語教育はこう変わる！⑤題材の導入の仕方（4年生） https://www.youtube.com/watch?v=9oE8o10Dzfw
2	小学校の外国語教育はこう変わる⑥やり取りの進め方（4年生） https://www.youtube.com/watch?v=aao7oF4lu1Y&t=66s
5	熊本の T 先生の授業（3年生） https://www.youtube.com/watch?v=Z6VdqlmpwOs&t=139s

5.3.6 フォニックスの基礎

6 月上旬から対面授業が認められることを期待していたが、叶わなかったため、YouTube 動画と自作教材を用いて「フォニックス」の基礎の理解を促した。課題として、フォニックスの 4 種の基本ルールの説明と小学校で学ぶ語彙一覧の中からそれぞれのルールを含む語を選び出す「ミニ・レポート」を課した。

- ・フォニックス・アルファベット（基本的な理論）の理解
<https://www.youtube.com/watch?v=fa73ysMT-TQ>
- ・チャンツ（ジングル）でフォニックス・アルファベットの練習
<https://www.youtube.com/watch?v=Ap-XnC63608>
- ・マジック E についての解説とチャンツで練習
<https://www.youtube.com/watch?v=BdCUUegak1I>
- ・2 文字子音についての解説とチャンツで練習
<https://youtu.be/cwgZayuDViy>

- ・ 礼儀正しい母音について解説とチャンツで練習

https://www.youtube.com/watch?v=_F5pFksx7JM

5.3.7 指導案の作成と模擬授業に向けて

わずか5回となった対面授業の中で模擬授業を課すにあたり、指導案の作成の際の留意点並びに模擬授業の実践例（動画）を用意した。

小学校英語教育に関する情報や活動例を紹介するために始めた筆者自身のブログ「目指せ！Happy Teacher! Happy Learner!」にアクセスし、模擬授業の例（指導のポイント、指導案、実践動画）の視聴させた（<http://happylearning.doorblog.jp/>）。

学生が指導案を作成するためのテンプレートは Google Classroom で配信し、発表の2日前までに、「クラスで共有」にアップロードし、グループ内で児童役を担う学生には事前に指導案を読んでおくように指示した。

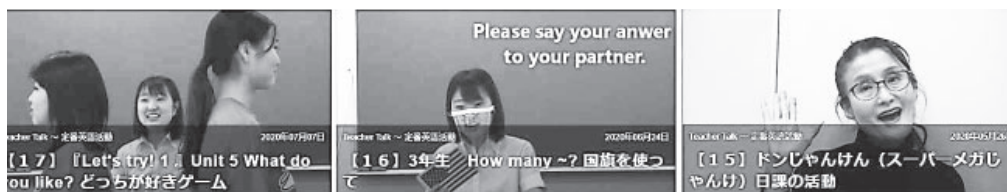


図6 模擬授業の実践例（一部）

5.3.8 対面授業

7月からの対面授業では、楽しく、興味・主体性を引き出す英語活動と模擬授業を体験してもらうことに重点を置いた。

表4 対面授業5回分の授業概要

11 回目	児童役として代表的な言語活動を体験	Small Talk（コロナ下でできること・できないこと） 3 Hint Quiz（梅雨にちなんだ出題、紫陽花、カビ等） 代表的な Game（Keyword Game 等）
12 回目	児童役として代表的な言語活動を体験 模擬授業準備	3 Hint Quiz（七夕にちなんだ出題、天の川等） Small Talk（Do you live in Milky Way?） 代表的な Game（Pointing Game 等）
13 回目	模擬授業(グループ活動)	指導案（2日前までに Google Classroom で共有） 当日の20時まで相互評価を Google Form に入力、動画と自由記述を Google Classroom で共有
14 回目	学習指導要領小学校外国語活動・外国語の要点模擬授業	小学校外国語活動・外国語における「見方・考え方を働かせ」「言語活動」「学びに向かう力」等の補足 模擬授業における Small Talk のポイント解説
15 回目	模擬授業(グループ活動)	指導案（2日前までに Google Classroom で共有） 当日20時まで相互評価を Google Form に入力、動画と自由記述を Google Classroom で共有

5.3.8.1 「マイクロ・ティーチング・ハンドブック」

模擬授業の指導案作成、教材作成・リハーサル等の事前準備、取り入れて欲しい方略などへの意識を促すために、「マイクロ・ティーチング・ハンドブック」を配布し、一連の流れを把握しやすいようにした。概要は以下の通りである。

表 5 模擬授業におけるストラテジーの試用と相互評価の流れ

1	行いたい模擬授業のイメージを描いてメモする。
2	試用するストラテジーを 20 項目の中から選択し、Google Form に入力する。
3	模擬授業の 2 日前までに指導案を作成し、Google Classroom に提出・共有する。
4	グループで模擬授業を行い、自撮り動画を Google Classroom に提出・共有する。
5	模擬授業当日の午後 8 時まで Google Form に相互評価・自己評価を入力する。
6	自由記述のコメントは、Google Classroom に提出・共有する。

5.3.8.2 「マイクロ・ティーチング・ストラテジー」20 項目の明示

「どのような模擬授業を行いたいのか」「そのために何をどのように行い、本番当日に備えるのか」を考えようと持ち掛け、20 項目の「マイクロ・ティーチング ストラテジー」(永倉 2020 の改訂版) (表 6) を提示した。

表 6 マイクロ・ティーチング ストラテジー 20 項目

①指導案の作成	1. 図書館やネット上にある「指導事例」を参考にする
	2. ネット上にある「指導例の動画」を参考にする
	3. 友達・教員等に相談する、話し合う
②社交・情緒	4. リラックスして、間違いを恐れない
③流暢さ	5. 大きな声ではっきり話す
	6. 発音、イントネーションやリズムに気をつけ流暢に話す
④意味交渉	7. 児童[役]に伝わるよう、簡潔で平易な英語表現を用いる
	8. 児童[役]に伝わるよう、ゆっくり言う(間を調整する)
	9. 児童[役]に伝わるよう、繰り返して言う
	10. 児童[役]に伝わるよう、例をあげる
	11. 合いの手、ほめ言葉、質問等を用い、やり取りをつなげる
⑤正確さ	12. 文法や語順を確認する
	13. 発音、イントネーションを確認する
⑥非言語	14. 笑顔を保ち、児童[役]の目を見て話す(アイコンタクト)
	15. ジェスチャーや表情をつけて話す
⑦教材・資料の活用	16. 画像・映像・ポスター・実物などを用い、視覚に訴える
	17. 音声教材を用い、聴覚に訴える
	18. 教具・カード等を用い、手作業を取り入れ、思考を促す

⑧自己調整	19. 指導案・教具作成・リハーサルなどの時間を確保する
	20. リハーサルを自撮りして、修正を図る

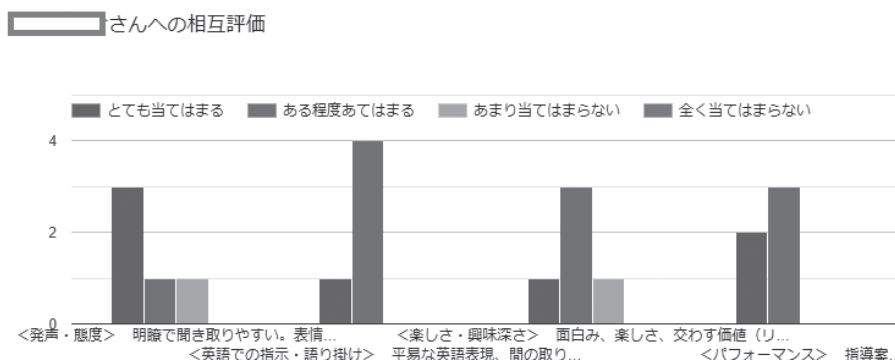
5.3.8.3 ルーブリックによる相互評価と自己評価

相互評価（表 7 参照）の結果については、集団ごとにその共有について相談した。共有に賛同した 2 専攻には図 7 のような形式で共有した。

表 7 マイクロ・ティーチング相互評価ルーブリック

発声・態度	明瞭で聞き取りやすい。表情・ジェスチャーと適切なアイコンタクトを用い、伝えようとする気持ちが十分に感じられた。
英語での指示・語り掛け	平易な英語表現、間の取り方、繰り返し、合いの手・ほめ言葉などにより、とてもわかりやすかった。
楽しさ・興味深さ	面白み、楽しさ、リアルさ、自己関連性がある。
パフォーマンス	指導案やメモを読むのではなく、ほとんど見ないで行った。

4 = 十分にできていた, 3 = ある程度うまくできていた, 2 = あまりできていなかった, 1 = できていなかった



さんへのコメント

5 件の回答

Teacher Talkで「へー」となる部分が多くあったため、面白かった。また、活動としてビンゴゲームを取り入れた点も良かった。

パワーポイントを利用したTeacherTalkが分かりやすく、児童の意外性をつくものであった。

テンポの良い授業でした。

笑顔でよかった。もう少し教師が自ら盛り上げてもいいかなと思った。

最初の果物が野菜かのクイズで、へえ〜がたくさんあって面白かったです

図 7 グループでの相互評価の結果 (一例)

指導案作成と事前準備については、表 8 のルーブリックを用いて自己評価を求めた。

表 8 マイクロ・ティーチング指導案の自己評価

ねらい、活動概要、言語表現、教材・教具等の表記	明確でわかり易い。
「英語で」授業を行えるような教師英語とやり取り	正しく、授業展開に適した英語で記載されている。
事前準備（指導案作成）	十分に時間をかけ、各項目が適切に表記されている。
事前準備（リハーサル）	自撮りを活用し、時間をかけ十分に行った。

4 = 十分にできていた, 3 = ある程度うまくできていた, 2 = あまりできていなかった, 1 = できていなかった

5.3.8.4. 授業終了直後の質問紙調査

授業中に行った学習活動の有効性、取り組みの度合いと理解度、20 項目のストラテジーの有効性と活用度の度合いに関する質問紙を作成し、Google Form に入力する形で回答を求めた。結果については、第 6 章で紹介する。

6. 省察の実際

オンライン授業および模擬授業を含む対面授業についてのコメントは、Google Classroom 上で共有された。

これらの記述データについては、「テキストマイニング」用のソフトウェア KH Coder を利用し、語彙頻度を示す「抽出語リスト」やある語彙がどの語彙と共に用いられているかを可視化してくれる「共起ネットワーク」により、概要を把握した。

「共起ネットワーク」では、共起関係のある語彙が色分けされており、円内の語をクリックすると、検索語彙を画面の中心に並べて表示してくれるが、語彙だけでなく、文単位で読むことで学生の意図をくみ取りたかったので、出現頻度の高い語句と色分けされた共起関係を基に、「コーディング」をしながら読み解いていった。

同授業は、4 集団で開講されているが、各集団の自由記述コメントについて、KH Coder による「抽出語リスト」と「共起ネットワーク」を概観すると、共通点が多いので、ここでは 4 集団の 1 つ、理科・音楽専攻の分析結果について報告する。

また、自己理解のためのアンケート調査 (5.2)、20 項目のストラテジーの試用状況の質問紙調査 (5.3.8.4) は、受講者全員の有効回答について量的処理を行った。

以下、授業の進行と学生の変容を振り返りながら、報告する。

6.1 英語学習とこれまでとこれからを考えるアンケート 2 種の結果

図 8 は、高校の英語授業において行ってきた学習活動についての調査（5 件法、5 = 頻繁に行った、4 = 時々行った、3 = たまに行った、2 = ほとんど行わなかった、1 = 全く行わなかった）の結果である。「高校英語授業は英語で」と叫ばれたから久しく、高校でも重視されているはずのやり取りや自己表現活動に★印をつけてみたが、

入試対策に追われ、語彙の拡充、語法・文法の理解、読解等に多くの時間を割き、主体的・対話的な学びが展開していたとは言えない高校も少なくないことがわかる。

高校での英語授業を振り返る (n=120,平均)

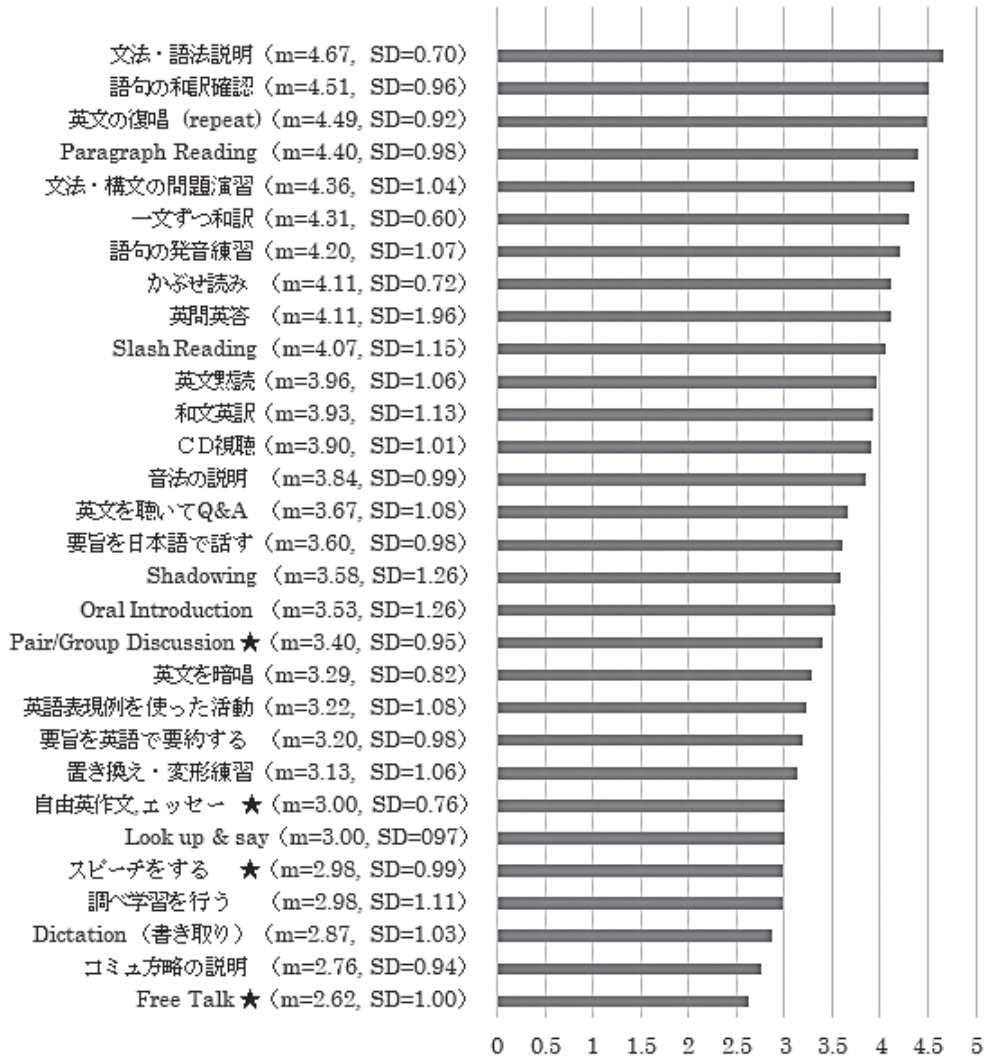


図8 高校の英語授業で行った活動 (5件法、5=頻繁に行った、4=時々行った、3=たまに行った、2=ほとんど行わなかった、1=全く行わなかった)

また、英語学習の目的について問うと、図9のレーダー型のグラフの右半が示す英語を使用したコミュニケーション能力よりもグラフの左側が示す英語に限定しない日本語を含む対人コミュニケーション能力を求めていることが推測される。



図9 英語学習の目的

そこで、英語に限定せずにコミュニケーションにおける態度等を尋ねてみると、図10が得られた。多くが教員志望であり、人前に立つことを苦手とする者はさほど多くはないが、主体的、対話的で深い学びを求めているとは言い難い。

言語使用の態度等について (n=120, 平均、4 件法)

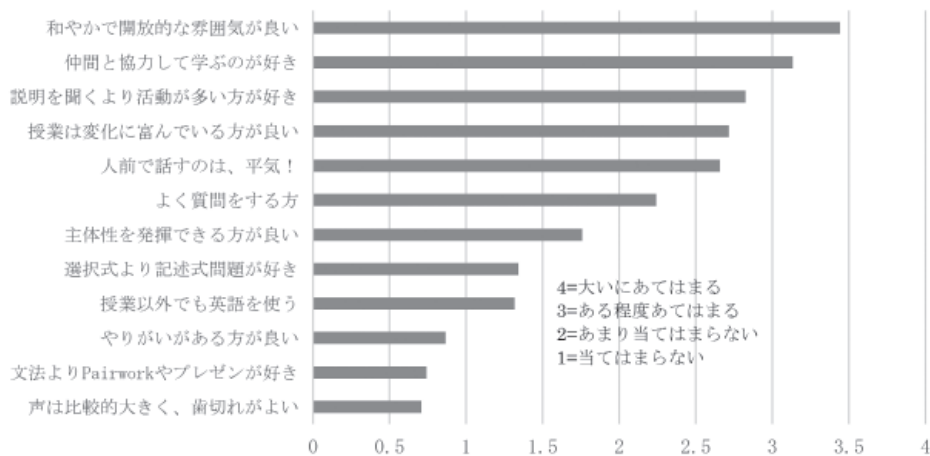


図10 言語使用の態度等について

コーディングをしながらコメントを読み解いていくと、どんなことに目を向けているかが見えて来るが、それは共起ネットワークで色分けされたものと重なる。

表 9 テキストデータ概要

総語数	3,006
異なり語数	572
文の数	127

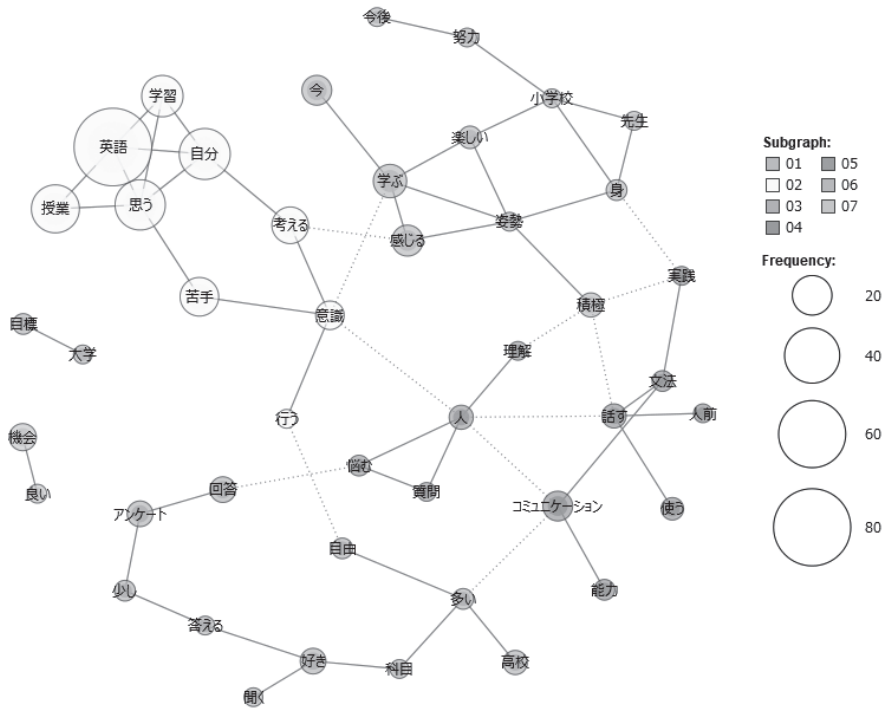


図 11 自己理解のための質問紙調査についての自由記述の共起ネットワーク

- 〔自分自身への気づき〕・自分のことをじっくり考えてこなかったのだと感じた。
- ・目標は？好きなことは？と聞かれてもパッと答えられなかった。
- ・英語学習には自ら行動する積極的な姿勢など様々な実践的な力が必要だと感じた。
- ・今までここまで細かく振り返ったことはなく、とても良い機会になった。等 26 人
- 〔目標〕・海外の方と少しでもコミュニケーションが取れるようになりたいと思った。
- ・小学校教員になったら、英語の楽しさや魅力を伝えられるようになりたい。
- ・海外に旅行しても困らないような実践的なことを学びたい。等 16 人
- 〔高校での英語学習〕・問題演習ばかりでいかに高得点を取るかを意識していた。
- ・英語は受験科目の 1 つにすぎなかった。等 15 人
- 〔意欲〕・失敗を恐れないポジティブな姿勢で学んでいきたい。
- ・教師として、英語の授業を行えるレベルまで英語力を向上させたい。等 15 人
- 〔英語に対する消極さ・苦手意識〕・英語が苦手で、興味関心を持ってない。
- ・英語に対し、楽しいと感じられたことは、ほとんどなかった様に思う。

- ・今まで英語学習をうまく取り入れられて来なかったのだと感じた。
- ・苦手な英語学習をどうしたらよいか、自分ではわからない。等 12 人
〔授業への期待〕・これらの質問を受けて授業のやり方を考えてくれるなら嬉しい。
- ・いろいろな面からの質問があり、工夫して授業をしようとしてくれていると感じた。
- ・今まで考えたことのないことが多く、この授業で自分がどう変わるか楽しみ。
〔自身の経験〕・リーダー的な仕事をしてきたため、人前で話すことに慣れています。
〔小学校での学習経験〕・元気の ALT だったが、それにノッていけない自分がいた。
〔オンライン授業への不安〕・機器の操作が苦手なので、オンライン授業が不安です。

6.2 模範的授業動画を視聴してコメント

表 10 テキストデータ概要

総語数	5,168
異なり語数	703
文の数	181

英語使用、ことば掛け・態度についての具体的な気づきが多数あげられていた。学生により、着目点は様々だが、それぞれの気づきが模擬授業に活かされるだろう。紙幅の関係で共起ネットワークは省略する。

- 〔教師の英語使用〕・日本語を使わず、ほとんど英語で授業をしていた。
 - ・口を大きく開けてわかりやすく丁寧に、ゆっくりと話していた。
 - ・話す文章はほとんど 2 回繰り返している。
 - ・使っている英語の種類は少ないが、テンポが良く、集中しやすい授業だった。
 - ・発音がきれいで聞き取りやすかった。等 29 人
- 〔気づきを促す〕・児童に質問して子供達に気付かせようとしていた。等 28 人
- 〔ジェスチャー〕・場面や状況等に応じてジェスチャーを使用している。等 27 人
- 〔視覚資料の活用〕・イラストを上手く使い、授業を丁寧にこなっていた。等 20 人
- 〔体を動かす〕・初めに体を動かすことで、緊張が解け笑顔になっていた。
 - ・聞いた英単語を行動に移すことでその英語の理解が深まる。等 19 人
- 〔児童の様子〕・元気があり、積極的で、楽しそうだった。
 - ・発音の違いを聞き分け、正しい発音をしようとしている。
 - ・児童の発言が受け止められることによって、授業が進められている。等 15 人
- 〔振り返り〕・その日の授業を全員で復習してから感想を書かせている等 12 人
- 〔楽しいことの大切さ〕・児童が喜ぶ活動を取り入れている。等 11 人
- 〔表情・アイコンタクト〕・教員は表情が豊かで児童と目を合わせようとしていた。等 11 人
- 〔細やかな発音指導〕・six の音が正しいかどうかを児童に判断させていた。等 10 人
- 〔観察、ほめ言葉〕・子供たちの小さな気づきも見落とさず、褒めてあげている。
 - ・子どもたちの発言によく耳を傾け、それを活かしながら授業を進めている。等 7 人
- 〔日本語の効果的使用〕・日本語と英語の使い分けの判断が大事。等 7 人
- 〔個人差への配慮〕・グループ分けであぶれてしまう子を想定して配慮していた。
 - ・児童が恥ずかしがっていたら無理はさせていなかった。等 5 人
- 〔授業概要の板書〕・黒板に授業の進行表を貼って分かりやすくしていた。等 5 人

- [モデルを示す]・ゆっくりとやって見せていて、わかりやすいと思った。等 3 人
- [英語学習の過程]・英語を使ってみることで学んでいく様子が見て取れた。等 3 人
- [動機づけ]・活動形式で行うことによって子供たちの意欲を高めていると感じた。
- ・ほとんどが手を挙げてから 1 人を指名するなど、やる気をくみ取っていた。等 3 人
- [身近な話題]・身近なことを話題にし、日常生活と英語を結び付けている。等 3 人
- [学習への意欲]・私自身も、発音の能力を向上させる必要があると感じた。
- ・今後、口の形など「発音」の仕方に一層気を付けるようにしたい。等 3 人
- [明るい雰囲気]・明るい雰囲気で見童を引き付ける教師の姿が印象的。等 3 人
- [既習事項想起の促し]・「挨拶の歌」を学んだ時のことを思い出させていた。等 2 人
- [ウケねらい]・最後だけわざとカードを逆にしてウケをねらっていた。
- [自身の学習経験]・自分が小学生の時は遊び感覚だった。
- [聞く活動が中心]・3 年生は、先生が英語で言ったことを聞く活動が多い。

6.3 一回目の対面授業についてのコメント

表 11 テキストデータ概要

総語数	2,843
異なり語数	503
文の数	118

筆者が小学校教員役、学生が児童役となり、定番のゲームやクイズを行った。ようやく実現した対面授業だったせいか、学びの楽しさについての記述が多かった。紙幅の関係で共起ネットワークは省略する。

- [学習への意欲]・もっと積極的に英語を話して定着させていきたい。
- ・今後は、特に発音の練習に多くの時間をかけるよう努めたいと思います。等 18 人
- [へえ〜の大切さ]・「へえ〜」を提供できるのが良い先生なのだと思います。
- ・自分自身も、こえからは「へえー！」などの反応を示していきたいと思います。
- ・「へえ〜」と口に出すと頭に Switch が入り happy になることがわかった。等 14 人
- [チャンツの有効性]・自宅で作るより全員で声を合わせて行くと楽しいと実感した。
- ・ジェスチャーを入れたり、ずらして読むことで、楽しみの幅が広がる。等 13 人
- [楽しいことの大切さ]・児童も自分も楽しめる授業を作れる力が必要だと感じた。
- ・人と話したりみんなで歌ったりする嬉しさ・楽しさを改めて感じた。等 13 人
- [対面授業の良さ]・対面授業の方が好きです。誰かと学ぶ大切さを改めて感じた。
- ・オンライン授業が続いたため、対面での授業がとても楽しく感じました。等 8 人
- [言語活動への気づき]・人にわかるように話すにはいろいろな力が必要だと思う。
- ・3 hint quiz が面白かった。自分の知識を使って伝えるためとても頭を使う。等 6 人
- [ジェスチャーの大切さ]・ジェスチャーやリアクションが大切だと思う。等 5 人
- [活動の工夫と面白さ] 少し変化を加えるだけで頭を使った。等 4 人
- [自身の態度への気づき]・これからは思ったことを口に出していきたい。
- ・人前でリアクションをするのに抵抗を感じ、目立たないようにしていたと思う。
- [即時的英語使用の難しさ]・ぜんぜん英語が出てこなくて、少し悲しくなった。

6.4 二回目の対面授業についてのコメント

学習指導要領小学校外国語活動・外国語の目標と学び方の特徴を説明したこともあり、それらに関するコメントが多かった。紙幅の関係で共起ネットワークは省略する。

表 12 テキストデータ概要

総語数	2,173
異なり語数	419
文の数	104

- [言語活動への気づき]・活動が先、納得が後という言葉が印象に残りました。
- ・日本語習得と照らし合わせると「活動が先、納得が後」は理に叶っている。等 20 人
- [ありがとう]・フェイスシールドを作ってくれた皆さん、ありがとう。15 人
- [活動の工夫と面白さ]・先生の工夫次第で、1つの教材から複数の活動を生み出せるのはとても魅力的であった。等 20 人
- [楽しいことの大切さ]・楽しんで学ぶことで英語も好きになると思います。
- ・つつい活動に夢中になっている自分がいました。等 13 人
- [学習への意欲]・出来るだけ楽しい模擬授業にするため 1 週間準備をします。
- ・自分はどんな授業が行いたいのかしっかりと考えていきたいと思った。等 9 人
- [ICT 活用の利点]・デジタル教材には個人差に対応する機能があることがわかった。
- [コロナ対策]・フェイスシールドを使って発音テストをやったがとても新鮮だった。
- [異文化・他教科ネタ]・天の川の話はヘェ〜の連続で知らない英語も学べた。
- [自身の学習経験]・文法を学ぶだけで人とのコミュニケーションをこななかった。
- [小学校英語の目的]・3, 4 年は素地となる資質・能力の向上を目指すことがわかった。
- ・小学校では活動から入り、中学校で基礎を学ぶことがわかった。
- [発音の大切さ]・動画提出のため、意識して発音練習することが大事だと気付いた。
- ・発音が難しく、日々の練習が大切だと思った。等 4 人
- [模擬授業への不安感]・来週のマイクロ・ティーチングが現在とても不安です。

6.5 一回目の模擬授業についてのコメント

やってみて気づいたことが多く寄せられた。予想はしていたが、「反省」が多く、「改善」への具体案はあまり見られなかった。

表 13 テキストデータ概要

総語数	4,513
異なり語数	641
文の数	173

- [英語使用×]・わかりやすい表現、繰り返しなどの工夫が足りなかったと感じた。
- ・Teacher Talk が、ぜんぜん自然にできなかった。
 - ・英語が出てこなくなったり、単語だけになったり、文法がおかしくなっていた。
 - ・活動の説明がとても難しく、指導案に書いた文章では伝わらなかった。等 25 人
- [準備不足]・指導案作成で終わってしまい、全体的に準備不足だった。
- ・準備が甘かった。事前にリハーサルを行い、時間配分を考えたい。等 17 人
- [進め方の把握×]・指導案が頭に入っていないとやれないことに気づいた。等 17 人
- [緊張・焦り]・緊張して頭が真っ白になり、思っていたようにはいかなかった
- ・焦ってしまい、説明を飛ばしてしまった。余裕を持たないと難しい。等 13 人

[活動のテンポ×] なんだかグダグダな模擬授業になってしまった。等 10 人
 [リハーサルの大切さ]・本番さながらにリハーサルを行うことが重要だと感じた。
 ・時間配分や児童のリアクションを考えながらリハーサルをする必要がある。等 9 人
 [児童への反応] 児童の反応を予想して準備をする必要があると思った。等 8 人
 [教材]・ワークシートを準備することでルールの説明が伝わりやすくなった。
 ・ネットで探したり、手作り教材を使っている人がすごく魅力的に見えた。等 8 人
 [英語使用方略の必要性]・繰り返しか、シンプルな表現とか、コツがあると感じた。
 ・英語に詰まってもジェスチャーを使うなどの臨機応変さが必要だと思った。等 7 人
 [自己調節の必要性]・「いつまでに何を終わらせるのか」を意識したい。
 ・指導案作成から本番前まで、計画性と見通しを持って準備することが必要だ。
 ・自撮りをして、修正する時間を確保するようにしたい。等 5 人
 [次回への意欲]・次回は自撮りをして、落ち着いてやれるように準備したい。
 ・友達の授業の動画などを見て、改善に努めていきたいです。
 [発音×]・lion など間違った発音をしてしまっていた。

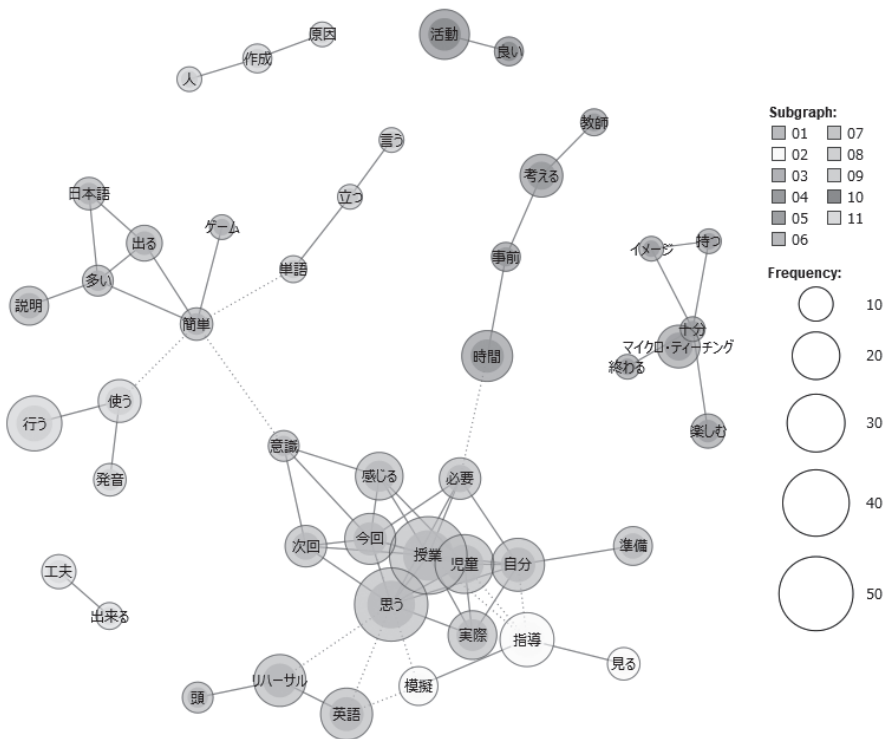


図 12 一回目の模擬授業後の自由記述についての共起ネットワーク

- ・自分の発音が悪く、児童役が勘違いをしてしまったことがあった。等 4 人
〔日本語使用〕困って日本語を使ってしまう場面が多かったと思う。2 人
〔肯定的な自己評価〕・リハーサルで流れが頭に入っていたので上手く進められた。
・「失敗や間違いを恐れず、楽しんでやる」という点については、達成できたと思う。

6.6 二回目の模擬授業についてのコメント

表 14 テキストデータ概要

総語数	2,537
異なり語数	484
文の数	99

1 回目の模擬授業と比べ、場面が目浮かぶようなコメントが増えた。わずかだが、改善につながる振り返りへの変容が見られる。紙幅の関係で共起ネットワークは省略する。

- 〔進め方の把握○〕・前よりも、授業展開を意識できた。
- ・児童に学ばせたいことを意識しながら授業を構成・展開することができた。等 9 人
〔英語使用×〕・臨機応変に英語を使うのは難しい。日本語になってしまった。等 7 人
〔英語使用○〕・易しい単語や簡略化した表現で授業を行うことができた。
- ・児童の間違いを直して言い直すことができたと思う。等 7 人
〔コロナへの配慮〕・マスクをしていても児童に届く明瞭な声が出せるようにしたい。
- 〔リアルな Teacher Talk〕・児童の興味をひく Teacher Talk ことができた。等 6 人
〔リハーサル不足〕・リハーサル練習の時間が不十分だったと痛感した。等 5 人
〔言い換え○〕・言い換えることで、うまく伝わったと思う。等 6 人
〔教材作成○〕・ワークシートを作ったのはモデルを示し易く、良かったと思う。
- 〔楽しめた〕・前回よりも楽しい授業ができたと思う。等 6 人
〔教具の取り扱い×〕・視覚教材を貼るのに時間がかかり、場が白けてしまった。
- 〔今後への意欲〕・何度も模擬授業を行うことが必要だと思いました。等 4 人
〔児童の主体性×〕・児童の活発な活動を引き出すのは難しい。
- 〔児童への反応〕・もっと児童役を褒めるべきだった。等 4 人
〔児童への反応○〕児童の発言に意識して反応することができた。等 3 人
〔児童役 of 学生への感謝〕・児童役の協力が大きい。実際にはそうはいかないと思う。
- 〔情報収集〕・YouTube などにある指導例の動画を見たりして吸収していきたい。

6.7 授業中の活動に関する質問紙調査の結果

概して、対面授業になってからの学習内容についての評価が高く、学生自身も主体的に取り組んでいたことがわかる。

やはり、課題や模擬授業など必ず取り組まなければならないものには、それなりの時間をかけ、前向きに取り組んでいる様子が伺える。

課題とした YouTube 上の模範的な小学校教員の授業動画に比べ、模擬授業の参考に視聴を勧めたブログ上の動画は視聴しなかった者もいたことがわかる。

学生が自主的に学ぶ姿を期待し、強制はしたくないが、その重要性を伝え、所要時間ややり方をなるべく明確に示し、取り組んでもらうべきだったと思う。

「英語 I」における ICT 活用と協同的省察の試み〈報告〉

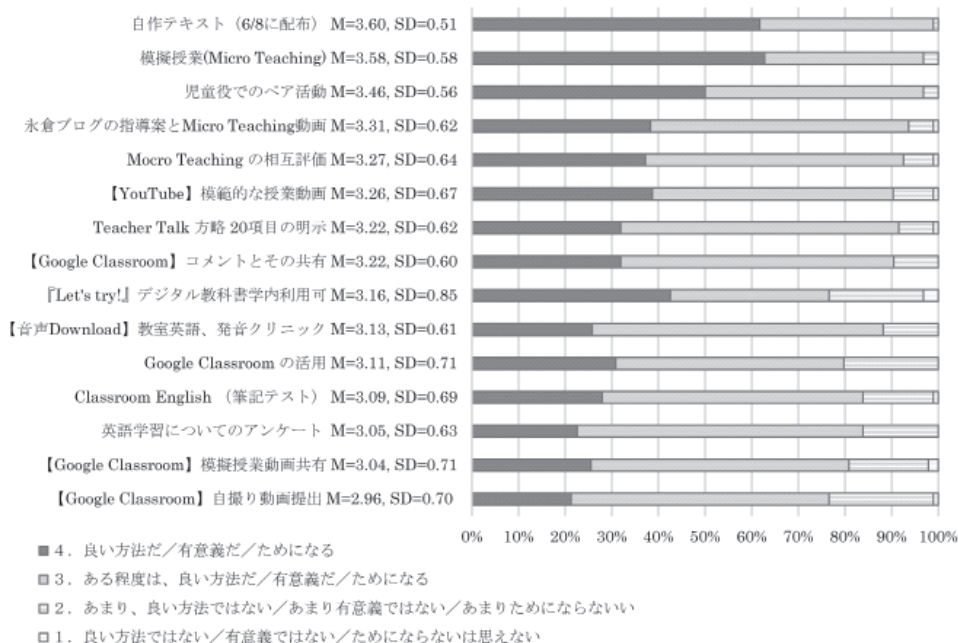


図 13 授業中の学習活動について (n=94, 4 件法, M: 平均, SD: 標準偏差)

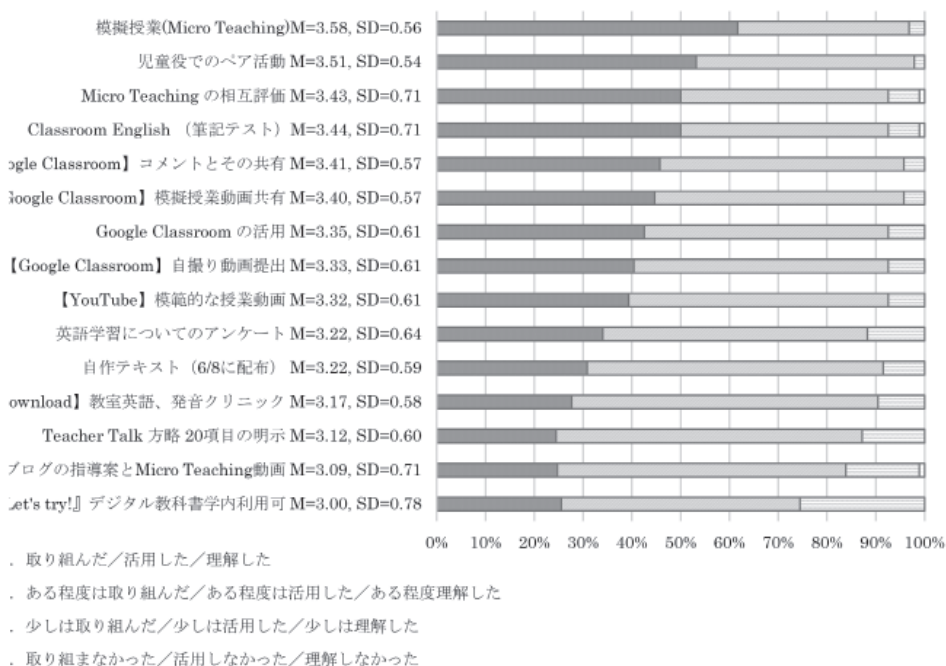


図 14 学生自身の取り組みについて (n=94, 4 件法, M: 平均, SD: 標準偏差)

6.8 ストラテジー 20 項目に関する質問紙調査の結果

YouTube 上の模範的な小学校教員の授業動画を視聴してのコメントにも数多く見られた英語使用とその表現方法（アイコンタクト、ジェスチャー、平易な英語で、笑顔で、大きな声で、言い換える、ほめ言葉や合いの手をはさんで等）に関するストラテジーを重視していることがわかる。

しかし、模擬授業に関するコメントを見ると、これらは取り入れようとするのと、実際に行うのは別物で、これまで学習活動として取り組み、その成果を確認するというプロセスをあまり経験したことがないのではないと思われる。頭ではわかったつもりでも、実際に行うのは難しいのである。こうした技能は、場数を踏んで慣れていけばよいという認識を持ち、恐れるに足らないことを伝えたいものである。

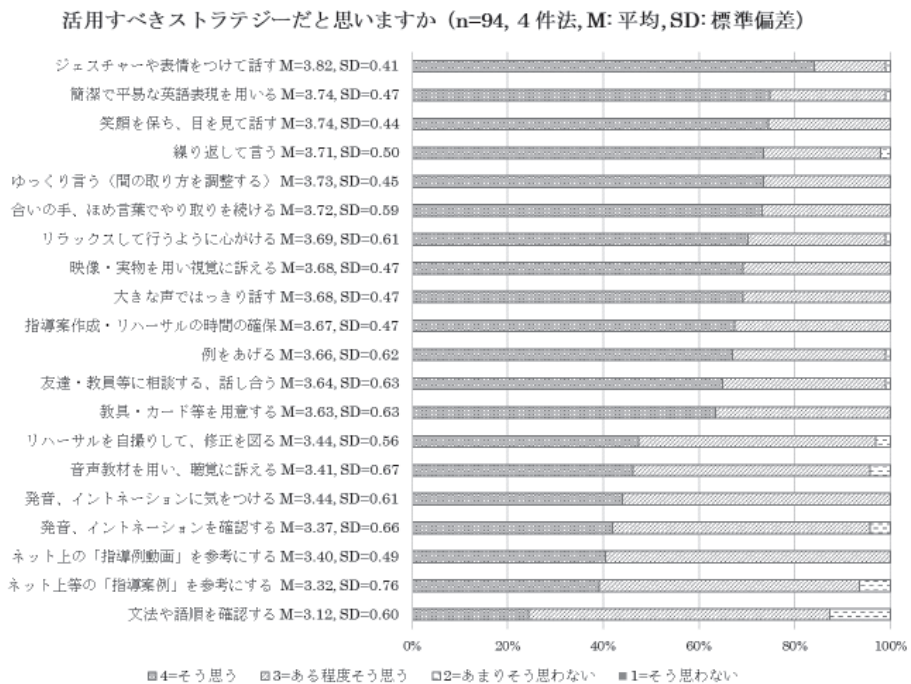


図 15 ストラテジー 20 項目の有効性についての学生の評価

6.9 最終授業後の自由記述

前述の質問紙調査の回答と共に寄せられた自由記述を紹介する。ここまでのコメントの共有のせいか、率直で建設的な意見が多く見られた。筆者にとっては手厳しいものもあるが、真摯に受け止めた。紙幅に配慮しながらも 4 集団すべての記述の分析結果を紹介する。

6.9.1 コメントの共有について

80名のうち70名のコメントが肯定的なものだった。強く否定したものがなく、「誰に読まれても良いように配慮している人が多いのではないか」「教師に対してだけ伝えたい時もある」「課題が立て込んでいてほとんど読まなかった」など。

感心したのは「将来教師になった時に協力し合える仲間でありたいが、その予行練習になったと思う」という同僚性への視点である。

表 15 テキストデータ概要

総語数	2,179
異なり語数	396
文の数	106

6.9.2 自撮り動画の共有について

98名のうち83名のコメントが肯定的なものだった。一方、「最初は恥ずかしかった」「嫌な人は拒否してもよいことにしてもよかった」「出来が悪かったのでアップしなかった」「良心に任せるしかないが、情報流出へ対応が必要」等の意見があった。

学生同士のなるべくオープンな関係性を求めるばかり、配慮に欠けるということは自覚しつつも断行した感は否めない。「指導案と併せて cloud 上に共有フォルダを設け、今後も利用できるようにしてほしい」「相互評価と併せて見られるようにするとよいと思う」「一人ひとりの意思を確認した方がよいと思う」といった建設的な意見を取り入れたい。

表 16 テキストデータ概要

総語数	3,142
異なり語数	445
文の数	123

6.9.3 オンライン授業について

多かったのは、一種の不安感とオンライン授業を体験して気づいた自身の学習者特性であった。「何となく不安」「だらけた」「やる気を維持できなかった」「課題をため込んでしまった」「学びを深められなかった」「強制されないとさぼってしまう」など、オンライン授業は「性に合わない」「苦手だ」という意見が多くみられた。

学習内容と課題については、見通しを立てるよう、3～4回分をまとめて伝えたが、受け止め方は様々であった。「先を見通して取り組めたのでよかった」という意見がある一方、「忘れてしまうので、1回ずつ知らせてほしかった」という意見もあった。

最も意義を感じてくれたのが、「発音」に関する動画視聴と練習である。「これまで口の形や舌の位置を意識したことがなかった」「何度も再生しながら練習できた」「発音には苦手意識が強かったが、学び方のコツがわかった」などの他、「ネイティブの動画を見ても自分が正しく発音できているかわからない」というコメントもあった。

何件か問い合わせもあり、丁寧に伝えつつも、伝わらないこともあると気付いた。学生の意見を参考に連絡方法や課題の内容を工夫していきたいものである。

表 17 テキストデータ概要

総語数	3,679
異なり語数	633
文の数	92

6.9.4 「マイクロ・ティーチング・ハンドブック」について

「ハンドブック」については、コメントを記した 84 名のすべてが「項目が明確で意識すべき点がわかり易い」「模擬授業を行う上で必要不可欠だ」など、好意的に受け止め活用してくれたことがわかった。

一方、相互評価については、63 名がコメントを寄せてくれたが、肯定的な意見が 46 名、否定的な意見と改善を求める意見が 17 名であった。今後、十分に配慮しながら継続していきたい事柄なので、両者の意見を具体的に紹介する。

[ためになる・役に立つ]・みんなからの評価を次回の模擬授業に生かすことができた。

- ・個人情報ですが、成長するためには純粋な評価が知りたい。この方法に賛成です。
- ・相互評価は良かった。他の人からの自分の授業に関する意見はすごく参考になった。
- ・シェアすることで、もっと頑張ろうと思えた。
- ・シェアして欲しかった。評価の高い人の発表を見たかった。
- ・よい評価がついている人に、話を聞いて参考にすることができた。
- ・評価されることで、改善点が見つかり、よいと思った。
- ・誰がどのような評価をしたことを気にするのではなく、自分自身の授業がどう評価されているか冷静に受け止める能力を高めることができると思う
- ・自分がどのように思われていたのか、はっきりと分かるのは良いと思った。
- ・自分を評価してくれる人たちに感謝し、次に活かしたいと感じた。
- ・普段からの雰囲気づくりができてないと感じた。もっと全員がオープンに前向きに学んでいくような集団にしたい。全員にシェアする方法はとてもいいと思う。
- ・児童側の気持ちがわかるのでとても良かった。
- ・自己反省と照らし合わせるができるため、かなり有効と思いました。

[抵抗がある・配慮は必要]

- ・評価高い人の動画は参考にしたい。
- ・自分の動画を見られるのは抵抗がある。
- ・公開・非公開をミックスできる工夫して欲しい。
- ・自分は良いが、周りで見られてはよくないと思う人も中にはいると感じた。
- ・遠慮がちな評価になると予想されるため、匿名の方が厳密な評価になるともう
- ・自分の評価を知られたくはないが、皆に評価を貰えるのは嬉しい。

表 18 テキストデータ概要

総語数	2,587
異なり語数	337
文の数	90

6.9.5 その他の自由記述について

発音練習の必要性を感じている者が多い。発音に対する不安感や苦手意識が小学校英語授業への消極的な態度につながることは知られているが、短期間で改善できることではないので、授業の枠を超えた取り組みを求める声も聞かれた。

もっと模擬授業を重ねたかったというコメントも多かった。デジタル教科書の機能や活用の仕方を取り入れて欲しいという意見もかなりあった。

オンライン授業での発音やチャンツの練習は、単調でつまらないので、活動を含む授業は対面にすべきだという要望は非常に多かった。

コメントを Google Classroom 上で共有するだけでなく、対面で時間を取ってグループで話し合う時間ももっと欲しかったという意見もあった。

また、ALT とのティー・チーングを経験したいという要望もあった。

7. まとめと今後の課題

本研究では、オンライン上でのコメント等の共有が学生の思考を促したのか、これまでの手書きのコメントと比べ、その量が大幅に増え、内容也多岐にわたった。また、様々な角度から自己を見つめ、気づいた点から柔軟に思考を膨らめる者もいれば、自分自身の思いや都合を記す者もいて、振り返りの内容、自己省察の質には、かなりの個人差があることが明らかとなった。

ストラテジー・トレーニングが目指す自律性は、この自己省察の如何とそれをどう学習活動や行動に反映させるかによって時間をかけて培われるものである。そこには自己との対話と相互に成長を支え合う関係性が欠かせない。

日頃、学生と接していて感じる「分かり合えなさ」「話し合いの成り立ちにくさ」を受け止めつつ、学生一人ひとりの自己理解と、自律性を涵養し合えるような関係性づくりを促す具体的な手立てを講じながら、授業を行う必要がある。

同科目では、①「知識・技能」の育成には、それぞれの英語活動に適した「認知ストラテジー」が有効であること、②「思考力・判断力・表現力等」の育成および「学びに向かう力・人間性等」の涵養には、「情意・社会ストラテジー」や自己理解や省察の際に活用すべき「メタ認知ストラテジー」が求められる。

それゆえ、該当学生には、(1) 学習活動に応じた有効なストラテジーを試行すると同時に、大学での教育関連の学びを深めながら、(2) 自らをより広く深く省察するトレーニングを通して、理想とする教育の在り方や教師像などを描いてほしい。

今後は、本研究で、その重要性を確認した「自律性の社会的側面」を重視し、相互に成長し合える関係性を育て得る手法を工夫していきたい。また、近年その活用を求められている ICT については、デジタル教科書を用いた授業実践演習およびオンライン上の省察とその共有を中心に活用の幅を広げていきたい。

参考文献

- Benson, P. (2001). *Teaching and researching autonomy in language learning*. Harlow: Longman/Pearson Education.
- Borg, S. (2010). Language teacher research engagement. *Language Teaching*, 43, 391-429.
- Chang, M. M. (2005). Applying self-regulated learning strategies in a web-based instruction—An investigation of motivation perception. *Computer Assisted Language Learning*, 18, 217-230.
- 藤田正, 富田翔子. (2012). 「自己調整学習に及ぼす学習動機および学習方略についての認知の影響」『奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要』第 21 号,

81-87.

- 樋口耕一 (2014). 『社会調査のための計量テキスト分析』 東京：ナカニシヤ出版.
- Holec, H. (1981). *Autonomy in foreign language learning*. Oxford: OUP.
- 小嶋英夫 (2010). 「学習者と指導者の自律的成長」尾関直子他『成長する英語学習者—学習者要因と自律学習』英語教育学大系第 6 巻, 133-161. 東京：大修館書店
- 永倉由里 (2008) 「第二言語習得研究を活かした日本人のためのストラテジー・トレーニング」『中部地区英語教育学会紀要』第 38 号, 429-436.
- 永倉由里 (2015). 「動機づけを促す英語授業とは—会話力を求める大学生のニーズに応えて—」『中部地区英語教育学会紀要』第 44 号, 81-88.
- 永倉由里 (2017). 「英語授業の質的向上を目指したリアリスティック・アプローチによる省察」『中部地区英語教育学会紀要』第 46 号, 157-164.
- 永倉由里 (2018). 「小学校英語指導 I における体系的省察による実践理解と授業改善の試み」『中部地区英語教育学会紀要』第 47 号, 189-196.
- 永倉由里 (2020). 「小学校英語指導力育成のためのストラテジー・トレーニング」『中部地区英語教育学会紀要』第 49 号, 341-348.
- Sinclair, B. (2000). Learner autonomy: the next phase. In B. Sinclair, et al (eds.) *Learner Autonomy, Teacher Autonomy: Future directions*. London: Longman, 4-14.